

星野 雅春 議員 地域担当職員制度の導入を

(主な答弁者・・・市民活動部長)

―現時点では、導入を考えていないが、調査研究をしていく―

問 高浜市や半田市が取り組んでいる地域担当職員制度とは。

答 市職員が地域へ出向き、会議への参加や意見交換、イベント支援などを通じて、よりよい地域づくりを応援する制度で、地域担当職員が地域と行政のつなぎ役となるものである。

問 地域担当職員制度を導入してはどうか。

答 本市では地域力の向上を図ることを目的とした元気な地域応援交付金制度やまちづくりコーディネーターの育成など、地域の支援を行っている。地域担当職員制度は、メリットもあるが、地域の自主性あるいは自



わたしたちが住む地域のことを考える住民会議

中嶋 祥元 議員 保護者と子どもに安全安心な子育て支援策の拡充を

(主な答弁者・・・次世代育成部長)

―待機児童の解消、園の運用について幼保が一体となって進める―

問 0～2歳児の待機児童が多く、保育園児数が幼稚園児数を上回っている現状では、乳児型保育施策は理解できる。保護者の送迎負担軽減と子どもの小学校入学を見据えた運用を検討すべきと考えるが市の見解は。

答 幼稚園の送迎用駐車場の確保が課題である。また、将来通う小学校と同じ学区に入園できるよう、将来的には幼稚園全園で預かり保育を実施していくことが望ましいと考えている。

問 保護者が育児休業から復帰する際の受け皿の確保は。

答 乳児型保育園への移行と幼稚園の預かり保育の拡充と



不審者から子どもたちを守ります

山内 智彦 議員 知恵・工夫・行動力を発揮できる人材が「刈谷」をつくる

(主な答弁者・・・総務部長)

―職員が自らの変革に主体的に取り組めるよう育成していく―

問 職員に求められる能力をどのように醸成しているのか。

答 多様化するニーズへの対応、複雑化する課題の解決に向

けて、様々な能力が必要である。合意形成を円滑に進めるファシリテーション能力、柔軟な発想などが必要な政策形成能力などを育成する研修を実施している。

問 私の求める人材育成のイメージは、頑張った人・職場・市が報われる仕組みであること。ものづくりのDNAが自然と刈谷の評価となることを願うが。

新村 健治 議員 高齢者配食サービスのさらなる拡充を

(主な答弁者・・・福祉健康部長)

―一般食の配食は、実施曜日を確保できるよう改善した―

問 高齢者配食サービスは食の支援とともに安否確認を行うサービスであるが、一般食の配食を週3回と決めている理由は。

答 デイサービスや緊急通報システム、見守り協定などのサービス利用により、安否確認の機会があることを踏まえ、週3回までの利用としている。

問 配食サービスの回数は、17年間改善されていないが、毎日実施する考えは。

答 平成29年7月に実施したアンケートの結果を踏まえ、本年度から一般食について、利用者の希望により月曜日から金曜日の間で実施曜日を選択できる



配食を通じて、見守り体制を充実します

上田 昌哉 議員 合計特殊出生率が1.62に下がる中、公共施設整備の再考を

(主な答弁者・・・企画財政部長)

―公共施設のあり方について、常に留意をしていく―

問 刈谷市民1人当たりの公共施設の面積は。

答 平成31年3月24日開館予定の歴史博物館の面積を29年度の公共施設の面積に加え、29年度の人口で計算すると、市民1人当たり3.76㎡となる。

問 年少人口及び生産年齢人口が落ち込み、高齢者が増大している中で、公共施設の面積が拡大している。その要因は。

答 ウィンディングアリーナ、総合

新海 真規 議員 独居高齢者に大きな安心を与える終活支援策を

(主な答弁者・・・福祉健康部長)

―行政の役割や関わり方について調査研究をしていく―

問 本市の独居高齢者数の推移は。

答 平成22年は1,417人、30年は2,234人である。

問 独居高齢者が増加すれば孤独死も増加すると想像できるが、市内における高齢者の孤独死の状況とその対策は。

答 亡くなった後に発見されたケースもあり、今後少しでもこのような孤独死を減らすため、見守り協力事業者の拡充を図るなど見守り体制の強化や安心安全を確保するサービスの充実も図っていきたい。

問 終活支援している自治体もあるが本市で実施する考えは。

答 孤独死の場合、葬儀、お



独居高齢者やその家族のために事前の終活支援対策を

編集後記 かけはし

◆12月議会が終了し、平成30年を締めくくりました。昨年1年間を振り返ってみますと「今年も災害が多く発生したな」という感想が浮かんできます。備えあれば憂いなしとの格言どおり、本市議会はさらなる防災減災対策の強化を各機関へ要望してまいります。

◆昨年末にはキャッシュレス社会が到来すると思われるようなスマホ決済が話題となりました。しかしながら、システムの不備が指摘・悪用されることになってしまいました。システムを運用する側ばかりが指摘されていますが、ネット社会には落とし穴が多くあるということを利用者自身が認識しておく必要があると思います。過剰なサービスや手帳だけを追い求めてはいけないと思います。行政サ

ービスについても同様であり、本来の目的が何であるのかを見失わないようにしっかりと見つめ直していかなければなりません。その一翼を担っているのが市議会であり、議論を重ねたうえで結論を出してまいります。

◆平成が終わりを告げます。いろいろな出来事の振り返りがさされています。記憶に新しいものや忘れていたものがあると思います。少し前までは「平成生まれ」という単語に驚きを感じていましたが、今では身近に感じられるようになってきました。時代の流れに即した行政運営のあり方を問い返しながら市民の皆様の満足度向上に努めてまいります。

◆議会広報委員会では市議会の活動をわかりやすくお伝えするために紙面の内容について検討しています。紙面についてのご要望がありましたら声をお寄せください。

(議会広報委員会)